

ダイレクトジャカードシステム（直織装置）の花筵への利用技術							
【要約】 <u>ダイレクトジャカードシステム（直織装置）</u> の機能を利用し、 <u>花筵の製織</u> を行うことができる。							
筑後分場・い草加工研究室					連絡先	0944-32-1029	
部会名	農 産	専門	加工利用	対象	工芸作物類	分類	普及

【背景・ねらい】

花筵の製織には、これまで紋紙（花筵を織り出すために必要な紙）を使用していたが、コンピュータデザインシステムを活用した直織装置による製織の可能性が考えられるようになってきた。このため、直織装置の機能や使用方法を明らかにして、花筵への利用技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

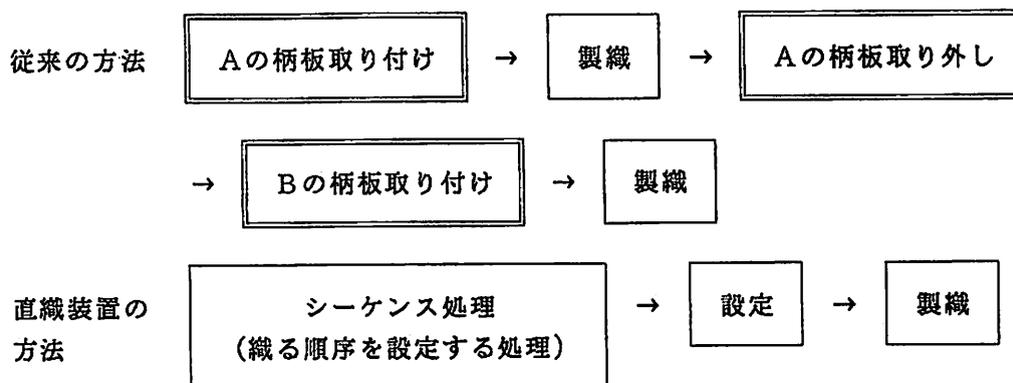
- ① 一台の織機で異なる二つの柄を製織する場合、従来までの方法ではAの柄を織った後、柄板を取り外し、Bの柄板を織機に取り付けるため多大の労力を要していた。しかし、直織装置では織る順序を設定（シーケンス処理）すれば、A柄からB柄への製織が容易にできる。
- ② 直織装置では「紋紙編集」の機能を使用することにより、紋紙の追加や削除が容易となり、柄の修正が迅速にできる。

【成果の活用面・留意点】

- ① 直織装置を利用した花筵生産に有効な技術として生産現場で活用する。
- ② 直織装置はホコリを嫌うので、直織装置にカバーをしたり、何度も掃除を行う必要がある。

[具体的データ]

(1) 異なる柄を連続して織る場合



(2) 紋紙を追加・削除する場合

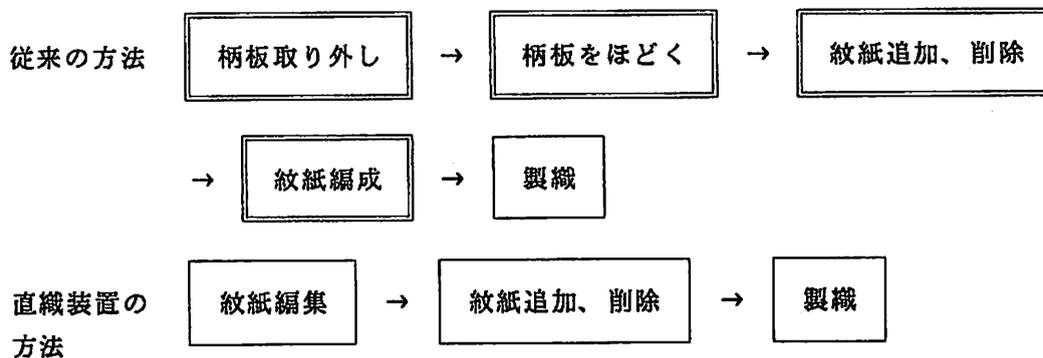


図1 紋紙を使用した方法と直織装置の比較

注) 〰〰で囲んだ部分が省力化できる。

[その他]

研究課題名：ダイレクトジャカードシステムの利用技術の検討

予算区分：県特

研究期間：平成4年度（平成2～4年）

研究担当者：中村厚司、村上康則、許斐健治

発表論文等：平成3～4年度筑後分場 い草加工研究室 いぐさの加工に関する試験成績書